

【原 著】

教職志望学生の指導のあり方 (7)
—教職相談室の利用の実態から—

小川 潔 武藤 幹夫 小林 清太郎

Provision of Guidance to Students Wishing to Become Teachers (7)
Status of How the Teaching Profession Consultation Office is Being Used

Kiyoshi OGAWA , Mikio BUTO, Seitaro KOBAYASHI

2015

岡山大学教師教育開発センター紀要 第5号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education
and Development, Okayama University, Vol.5, March 2015

原 著

教職志望学生の指導のあり方(7)

—教職相談室の利用の実態から—

小川 潔*¹ 武藤 幹夫*¹ 小林 清太郎*¹

教職相談室では、主に教職志望の学生を対象に、教員採用試験に向けての指導を中心とした様々な相談活動を行っている。今年度は次の2点について更なる指導体制の充実が図られた。1点目は月曜から金曜まで常時2人体制での指導が可能となったということである。2点目は教職相談室の利用を促す「教職ガイダンス」を新たに開催したということである。これらの結果、年間利用延べ人数が995人増加した。また昨年度までと同様に、教員採用試験に最終合格した学生とそれ以外の学生では、教職相談室の利用回数に大きな差が見られた。採用試験に合格した学生の教職相談室の平均利用回数は23.1回であったのに対して、1次試験のみ合格の学生は11.5回、合格しなかった学生は4.7回であった。更に、教員採用試験を受験する前年の早い時期に利用開始した学生ほど合格率が高くなる傾向にあった。

キーワード：教職相談室、指導体制の充実、教職ガイダンス、利用回数、利用開始月

※1 岡山大学教師教育開発センター

I 本年度の取り組み

本年度も主に次のような取り組みを行ってきた。

- ① 教員採用試験に向けての勉強方法についての相談
- ② 学校支援ボランティアについての相談
- ③ 教職という仕事全般についての相談
- ④ 教師力養成講座の開催とDVD視聴
- ⑤ 教員採用試験に向けての個別的・具体的な指導

ア 小論文

イ 個人面接

ウ 集団討論

エ 模擬授業

オ ロールプレイングや場面指導

上記の具体的な取り組みについては、これまでの「教員志望学生の指導のあり方(1)～(6)」で記してきたので、今回は、今年度新たに取り組んだ「教員の3人体制の更なる充実」「教職相談室の利用に特化した『教職ガイダンス』の開催」の2点について述べる。

1 教員の3人体制の更なる充実

平成25年7月から教員が1名増員され、月曜と金

曜の午後2時から午後5時までの週6時間勤務することになった。その結果、利用者が173人増加した。しかし、昨年度利用した学生の声を聞くと、「4月から8月は、教職相談室を利用したくても利用できない」「特に、7月と8月は1ヶ月以上前から予約でいっぱいになる」「利用できる時間枠を増やしてほしい」という声が依然として多かった。そこで、今年度は新たに、昨年度増員された教員の勤務時間を、月曜と金曜の午前10時から午前5時までの週10時間に延長した。そのことにより、高校教員を目指している学生は勿論、それ以外の学生のニーズにもより幅広く対応することが可能となった。その結果、大幅な利用者の増加に繋げることができたと考えている。

2 教職相談室の利用に特化した「教職ガイダンス」の開催

岡山大学に教職相談室が開室されて10年になる。その間、多くの方々のご理解とご協力とご支援のお陰で徐々に利用者が増え、その認知度も次第に高まってきた。しかし、その一方で、把握できている数字だけではあるが、今年度教員採用試験を受けた岡山大学生317人の内、70人(約22%)は教職相談室を1度も利用していない。そして、教職相談室を1度で

も利用したことのある学生は2次合格率56.7%、1次合格率23.5%、不合格率19.8%であったのに対して、1度も利用したことのない学生は2次合格率18.6%、1次合格率21.4%、不合格率60.0%であった。そのため、利用しない学生を減らし、利用する学生を増やす方策が求められていた。また、教育学部生の教採受験率が例年70%前後であり、受験した学生のほとんどが合否にかかわらず、講師も含めてその翌年には教職に就くという実情であった。そのため、教採受験者を増やし教職への就職率を上げることが求められていた。このように、教採受験者や合格者を増やすための方策として、今年初めて「教職相談室の利用に特化した『教職ガイダンス』」を開催した。その結果、予想を大きく超える183人の学生が参加し、その後の利用者増加に大きく繋げることができたと考えている。

ただ、今年度の教採受験者数の最終的な集計が3月末となるため、この論文においては増加したかどうかの検証はできていない。今後の検証に待ちたい。

II 教職相談室の利用者数の状況

表1・図1は、平成17年4月から平成26年11月までの利用者数の推移である。平成17年度から平成22年度までは、年間利用延べ人数が増加を続けてきた。しかし、平成23年度は平成22年度と比較して減少している。これは、毎年4月に教職相談室が指導している教採自主講座の「小論文の書き方」と「面接や模擬授業の受け方」の開講日が、平成23年度は他の講義や教採説明会と重なり、受講生が少なくなったためと考えられる。平成24年度以降は重複することがないように設定して開催することができたため、増加傾向が続いている。特に、平成26年5月・6月・7月・8月は、月別の集計においてはこれまでで最多の利用者となった。そして、7月は初めて、1ヶ月間だけで1,000人を超える利用者となった。

表2は、前年12月から次年11月までの年間利用延べ人数の集計表である。教員採用試験に向けて多くの学生が来室し始めるのが前年の12月であり、多くの自治体の合格発表が終わり学生が来なくなるのが11月である。そのため、前年の12月から次年の11月までの集計表では、同じ学生が利用し始めてから利用し終わるまでを通しての年間利用延べ人数を比較することができる。平成25年12月から平成26年11月までの年間利用延べ人数は5,357人であり、前年の平成24年12月から平成25年11月までの利

用者数と比較すると、995人増加し初めて5,000人を超えた。

この1年間利用者が大きく増加したことの要因として、以下の2点が考えられる。「I 本年度の取り組み」で前述したが、一つ目は、昨年度に増員された教員の勤務時間が、週6時間から週10時間に延長されたということである。昨年度は、7月からの月曜と金曜の午後2時から午後5時までであったが、今年度は、年度当初の4月から午前10時から午後5時までに延長され、常時2人体制で指導に当たることが可能となった。そのことにより、より多くの学生のニーズに対応できるようになった。

二つ目は、「教職相談室の利用の仕方」と「小論文を練習することの意義」に特化した教職ガイダンスを開催したことである。これまでの教職ガイダンスの主な内容は、「教職・就職ガイドブックの配布、ガイドブックの利用方法の説明、教採合格者の体験談、学校現場で働く先輩から後輩へのエール」であり、教育実習の終わった12月上・中旬ごろ、学年ごとに開催してきた。それに加えて、今回初めて翌年の1月8日に、「教職相談室の利用促進」と「小論文の練習開始時期を1月に早めることを勧める」目的で、そのことの内容に特化した教職ガイダンスを開催した。次年度の教採受験者を中心に183人の学生が参加し、それ以降の利用者増加に繋げることができた。

表3は、平成25年12月から平成26年11月までの学生別利用者数である。教職相談室の利用者の多くは教育学部生であるが、平成25年12月から平成26年11月までの年間利用者5,357人の内、課程認定学部生は396人であった。課程認定学部生の割合は約7.4%で、前年と比較すると48人増加したが、割合は約0.6%下がっている。今後も、課程認定学部生の利用を増やすための工夫が必要である。

表4は、平成25年12月から平成26年11月までの教職相談室利用内訳である。前年と比較して大きく増加しているのが「A. 小論文」「B. DVD視聴」「C. 個人・集団面接」「D. 集団討論」と「E. 模擬授業」である。

「A. 小論文」は、1,266人から1,359人と93人(約7.3%)増加している。

「B. DVD視聴」は、205人から295人と90人(約44.9%)増加している。

「C. 個人・集団面接」は、975人から1,246人と271人(約27.8%)増加している。

「D. 集団討論」は、996人から1,413人と417人(約

41.9%) 増加している。「E. 模擬授業」は、345人から501人と156人（約45.2%）増加している。

次に、増加の時期を見ると、「A. 小論文」「B. DVD視聴」は、1月から3月にかけて増加している。「C. 個人・集団面接」「D. 集団討論」「E. 模擬授業」は、4月から8月にかけて増加している。これは、1月に「教職ガイダンス」を開催して、小論文を書いて練習し

たり、DVDを視聴したりすることの意義を説明したりする機会を持ったためと考えられる。また、例年最も利用者が多くなり、そのニーズにこれまでは十分に対応することができなかった4月から8月においても、今年は常時2人体制で指導できるようになったためであると考えられる。

表1 「教職相談室利用者数の推移」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
17年度	104 (47)	184 (21)	168 (13)	195 (18)	267 (2)	29 (3)	81 (9)	46 (6)	33 (12)	17 (5)	31 (8)	23 (2)	1178 (146)
18年度	134 (78)	213 (23)	193 (19)	205 (13)	174 (2)	24 (0)	87 (6)	37 (9)	25 (8)	37 (7)	42 (8)	49 (11)	1220 (184)
19年度	196 (61)	230 (12)	222 (24)	222 (19)	278 (6)	21 (2)	61 (2)	30 (10)	23 (13)	31 (22)	27 (2)	36 (9)	1377 (182)
20年度	209 (96)	539 (137)	387 (17)	539 (21)	430 (7)	37 (3)	148 (19)	88 (12)	104 (43)	90 (28)	86 (13)	113 (12)	2770 (408)
21年度	305 (149)	479 (94)	496 (30)	623 (25)	421 (13)	66 (4)	176 (22)	106 (26)	99 (26)	154 (33)	152 (17)	126 (9)	3203 (448)
22年度	731 (238)	710 (52)	556 (18)	711 (14)	501 (15)	87 (4)	261 (12)	155 (17)	230 (47)	293 (43)	217 (14)	141 (3)	4593 (477)
23年度	359 (143)	596 (85)	458 (38)	505 (24)	526 (15)	99 (4)	200 (6)	106 (21)	165 (65)	266 (39)	257 (21)	164 (9)	3701 (470)
24年度	772 (241)	650 (67)	495 (24)	654 (19)	414 (21)	59 (5)	195 (22)	98 (21)	148 (45)	127 (23)	140 (12)	144 (6)	3896 (506)
25年度	654 (231)	743 (59)	461 (12)	802 (12)	772 (20)	89 (6)	194 (22)	88 (16)	240 (87)	345 (38)	180 (7)	201 (17)	4769 (527)
26年度	739 (232)	782 (45)	622 (14)	1019 (24)	862 (13)	70 (7)	215 (19)	82 (11)					4391 (365)

*注：カッコ内は実人数である。

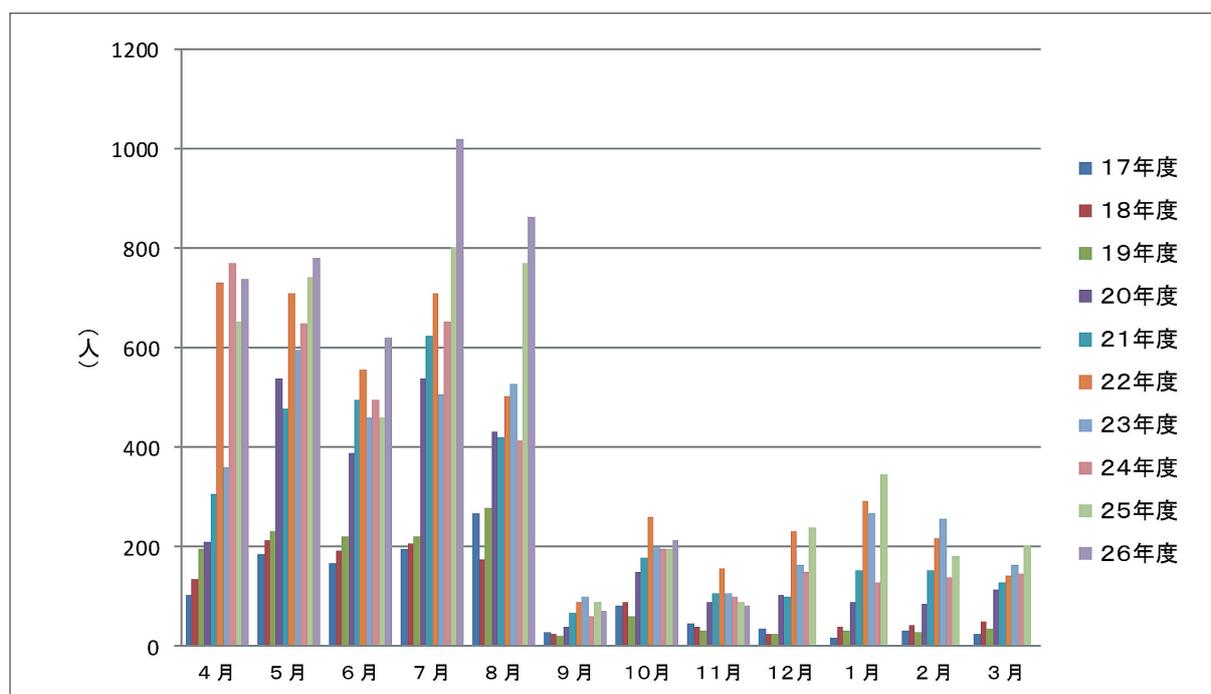


図1 「教職相談室利用者の月別比較」

表2 「前年12月から次年11月までの利用者数の推移」

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
H17.12 ~ H18.11	33 (12)	17 (5)	31 (8)	23 (2)	134 (78)	213 (23)	193 (19)	205 (13)	174 (2)	24 (0)	87 (6)	37 (9)	1171 (177)
H18.12 ~ H19.11	25 (8)	37 (7)	42 (8)	49 (11)	196 (61)	230 (12)	222 (24)	222 (19)	278 (6)	21 (2)	61 (2)	30 (10)	1413 (170)
H19.12 ~ H20.11	23 (13)	31 (22)	27 (2)	36 (9)	209 (96)	539 (137)	387 (17)	539 (21)	430 (7)	37 (3)	148 (19)	88 (12)	2494 (358)
H20.12 ~ H21.11	104 (43)	90 (28)	86 (13)	113 (12)	305 (149)	479 (94)	496 (30)	623 (25)	421 (13)	66 (4)	176 (22)	106 (26)	3065 (459)
H21.12 ~ H22.11	99 (26)	154 (33)	152 (17)	126 (9)	731 (238)	710 (52)	556 (18)	711 (14)	501 (15)	87 (4)	261 (12)	155 (17)	4243 (455)
H22.12 ~ H23.11	230 (47)	293 (43)	217 (14)	141 (3)	359 (143)	596 (85)	458 (38)	505 (24)	526 (15)	99 (4)	200 (6)	106 (21)	3730 (443)
H23.12 ~ H24.11	165 (65)	266 (39)	257 (21)	164 (9)	772 (241)	650 (67)	495 (24)	654 (19)	414 (21)	59 (5)	195 (22)	98 (21)	4189 (554)
H24.12 ~ H25.11	148 (45)	127 (23)	140 (12)	144 (6)	654 (231)	743 (59)	461 (12)	802 (12)	772 (20)	89 (6)	194 (22)	88 (16)	4362 (464)
H25.12 ~ H26.11	240 (87)	345 (38)	180 (7)	201 (17)	739 (232)	782 (45)	622 (14)	1019 (24)	862 (13)	70 (7)	215 (19)	82 (11)	5357 (514)

*注：カッコ内は実人数である。

表3 「平成25年12月から平成26年11月までの学生別利用者数」

月	教育学部	教育学研究科	別	科	特	専	課程認定学部													課程認定大学院					計 (教育学部・ 教育学研究科 以外)	合計	
							卒業生	教育学部	教育学研究科	計	文学部	法学部	経済学部	理学部	工学部	環境理工学部	農学部	マッピングプログラムコース	計	環境生命科学	自然科学博士前期理学系	自然科学博士前期工学系	社会文化科学博士前期	計			
12月	205 (128)	6 (2)	0 (4)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	9 (0)	0 (4)	0 (0)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	8 (1)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	22 (9)	2 (1)	3 (4)	1 (0)	0 (0)	6 (5)	0 (0)	29 (18)	240 (148)
1月	309 (107)	1 (4)	1 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (3)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	1 (0)	0 (1)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	19 (5)	6 (1)	5 (3)	4 (2)	0 (1)	15 (7)	0 (0)	0 (0)	35 (16)	345 (127)	
2月	155 (116)	7 (3)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	2 (7)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (12)	3 (3)	2 (0)	2 (4)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	18 (21)	180 (140)	
3月	159 (119)	14 (3)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (4)	8 (1)	0 (0)	3 (10)	6 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	1 (1)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	201 (144)	
4月	618 (565)	30 (34)	45 (17)	3 (0)	6 (4)	0 (4)	6 (7)	9 (0)	0 (0)	0 (11)	7 (0)	8 (0)	3 (0)	6 (0)	0 (2)	0 (0)	33 (20)	2 (0)	2 (10)	0 (4)	0 (0)	0 (14)	4 (0)	0 (0)	91 (55)	739 (654)	
5月	599 (616)	49 (47)	87 (25)	5 (0)	1 (5)	0 (0)	14 (17)	0 (0)	0 (4)	11 (15)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	2 (1)	34 (39)	4 (0)	3 (6)	0 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (9)	0 (2)	134 (80)	782 (743)	
6月	535 (385)	15 (28)	49 (7)	1 (0)	3 (9)	0 (0)	3 (8)	3 (0)	0 (0)	1 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	2 (0)	7 (17)	4 (0)	8 (11)	0 (4)	0 (0)	0 (15)	0 (0)	0 (0)	72 (48)	622 (461)	
7月	806 (650)	44 (34)	110 (36)	8 (0)	2 (8)	0 (0)	2 (33)	9 (0)	0 (0)	0 (18)	9 (1)	1 (2)	0 (3)	0 (0)	2 (0)	21 (57)	11 (1)	11 (10)	0 (6)	6 (0)	28 (0)	0 (17)	0 (0)	0 (0)	169 (118)	1019 (802)	
8月	689 (643)	58 (64)	55 (2)	5 (15)	7 (16)	2 (13)	9 (0)	19 (0)	0 (13)	0 (1)	8 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (0)	2 (27)	34 (2)	7 (10)	5 (2)	0 (0)	0 (14)	0 (6)	12 (0)	0 (0)	115 (65)	862 (772)	
9月	34 (75)	7 (3)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	7 (0)	2 (4)	4 (0)	0 (0)	0 (3)	0 (0)	0 (0)	2 (9)	15 (2)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (2)	0 (0)	0 (0)	29 (11)	70 (89)	
10月	143 (160)	11 (8)	4 (2)	11 (1)	1 (0)	1 (1)	22 (3)	2 (0)	0 (0)	17 (13)	0 (0)	0 (4)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	42 (20)	1 (2)	1 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	1 (0)	0 (0)	61 (26)	215 (194)	
11月	40 (72)	2 (0)	3 (5)	2 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	24 (0)	0 (0)	9 (6)	0 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	35 (9)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	40 (16)	82 (88)	
合計	4292 (3636)	244 (230)	363 (103)	37 (0)	25 (44)	139 (1)	2 (45)	2 (102)	2 (1)	84 (6)	29 (107)	5 (4)	25 (10)	7 (8)	293 (1)	42 (239)	45 (13)	9 (56)	6 (31)	102 (1)	1 (101)	1 (8)	821 (496)	5357 (4362)			

*注：カッコ内は前年実績である。

表4 「平成25年12月から平成26年11月までの教職相談室利用内訳」

項目	A. 小論文	B. DVD 視聴	C. 個人・集団面接	D. 集団討論	E. 模擬授業	F. 情報・資料提供等	月											計
							12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
1. 教師としての自覚や使命感に関すること	70 (45)	178 (69)	122 (104)	113 (102)	330 (327)	296 (270)	58 (107)	53 (91)	100 (118)	10 (5)	11 (16)	18 (12)	1359 (1266)					
	14 (10)	55 (0)	37 (15)	55 (25)	71 (93)	25 (43)	0 (6)	0 (6)	0 (0)	10 (0)	17 (0)	11 (7)	295 (205)					
2. 教員採用試験に関すること	3 (17)	1 (7)	0 (3)	0 (1)	173 (173)	120 (90)	294 (158)	385 (298)	210 (138)	8 (13)	24 (44)	28 (33)	1246 (975)					
	78 (1)	86 (19)	0 (0)	0 (1)	111 (233)	248 (171)	253 (285)	420 (235)	163 (21)	11 (29)	40 (0)	3 (0)	1413 (996)					
	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	131 (90)	361 (235)	3 (17)	3 (1)	2 (0)	501 (345)					
	57 (53)	17 (23)	15 (13)	15 (5)	47 (45)	71 (77)	15 (15)	29 (29)	26 (28)	13 (8)	22 (21)	7 (17)	334 (334)					
	222 (126)	338 (118)	174 (135)	183 (135)	732 (640)	760 (713)	620 (457)	1018 (799)	860 (754)	55 (64)	117 (111)	69 (69)	5148 (4121)					
	4 (3)	2 (2)	2 (1)	4 (3)	2 (1)	11 (16)	1 (2)	0 (3)	0 (4)	5 (4)	7 (5)	2 (0)	40 (49)					
13 (19)	4 (7)	3 (4)	7 (6)	5 (12)	11 (14)	1 (1)	0 (0)	2 (14)	10 (21)	9 (76)	11 (14)	188 (188)						
1 (0)	1 (0)	1 (0)	7 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	11 (4)						
合計	240 (148)	345 (127)	180 (140)	201 (144)	739 (654)	782 (743)	622 (461)	1019 (802)	862 (772)	70 (89)	215 (194)	82 (88)	5357 (4362)					

*注：カッコ内は前年実績である。

平成26年12月1日作成
単位：人

Ⅲ 教職相談室の利用回数・利用開始月と教員採用試験の合否

「教職相談室を利用した回数」及び「教職相談室を利用し始めた月」と「教員採用試験における合否の結果」について比較する。

1 分析の対象

(1) 分析対象期間

平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 11 月 30 日までの 20 か月間を分析の対象とした。その理由は、学生が教職相談室を利用し始めるきっかけの多くが 12 月初旬に開催される「教職ガイダンス」であるが、3 年生になってすぐの 4 月に来室したり、実習前の 9 月・10 月に来室したりする学生が徐々に増えてきているからである。また、その期間の利用回数も総利用回数としてカウントした方が統計上正確な数字となるからである。

(2) 分析対象者

上記分析対象期間に教職相談室を利用した学生は 372 人であった。その内、1 年生、2 年生、3 年生な

どの教員採用試験を受けていない者は 56 人であった。372 人から 56 人を除いた 316 人の教員採用試験受験者の内、69 人が試験結果の合否が不明であるため、更にそれを除いた 247 人を教職相談室を利用した学生としての調査対象とした。一方、教育学部・教育学研究科と課程認定学部・大学院の学生で、教員採用試験を受験して合否が分かっている者の内、教職相談室を利用しなかった学生は 70 人であった。そこで、教職相談室を利用した 247 人と教職相談室を利用しなかった 70 人を加えた 317 人を調査対象者とした。

(3) 分類

317 人の内、教員採用試験に最終的に合格した 153 人を「2 次合格」群、1 次試験に合格したが 2 次以降の試験には合格しなかった 73 人を「1 次合格」群、1 次試験に合格しなかった 91 人を「不合格」群と分類した。なお、複数の地域で受験した学生については、最も結果の良かったものをその学生の最終結果として採用した。各群に分類された学生の教職相談室の利用回数を表 5 に示した。

表 5 「教職相談室の利用回数と教員採用試験の合否」

合否	平均利用回数(回)	教職相談室利用回数ごとの人数 (人)															計(人)
		0回	1~5回	6~10回	11~15回	16~20回	21~25回	26~30回	31~35回	36~40回	41~45回	46~50回	51~55回	56~60回	61~65回	66~回	
2次合格	23.07	13	15	12	19	17	14	15	13	10	6	8	2	5	3	1	153
	%	8.5	9.8	7.8	12.4	11.1	9.2	9.8	8.5	6.5	3.4	5.2	1.3	3.3	2	0.7	100
1次合格	11.48	15	19	6	9	7	7	2	3	2	1	1			1	73	
	%	20.5	26	8.2	12.3	9.6	9.6	2.7	4.1	2.7	1.4	1.4			1.4	100	
不合格	4.74	42	25	7	9	3	1	3	1							91	
	%	46.2	27.5	7.7	9.9	3.3	1.1	3.3	1.1							100	
全体	15.14	70	59	25	37	27	22	20	17	12	7	9	2	5	4	1	317
	%	22.1	18.6	7.9	11.7	8.5	6.9	6.3	5.4	3.8	2.2	2.8	0.6	1.6	1.3	0.3	100

2 教職相談室の利用回数と教員採用試験の合否

一人あたりの教職相談室の平均利用回数は、2 次合格群は 23.1 回、1 次合格群は 11.5 回、不合格群は 4.7 回、全体の平均は 15.1 回であった。昨年度の集計結果と比較すると、2 次合格群は 3.39 回、1 次合格群は 0.3 回、不合格群は 1.76 回の増加であった。これは、一人当たりの利用回数がここ数年増加傾向にあるためである。

本年度の各群の利用回数を比較すると、2 次合格群と 1 次合格群では約 2.0 倍、1 次合格群と不合格群では約 2.4 倍、2 次合格群と不合格群では約 4.9 倍の差があった。

利用回数ごとの人数をみると、不合格群では 0 回が最も多く全体の 46.2% であり、0 回と 1~5 回の利

用者が全体の 73.7% であった。1 次合格群では 1~5 回が最も多く全体の 26.0% であり、0 回と 1~5 回の利用者が全体の 46.5% であった。このことから、2 次合格に至らなかった学生は、2 次合格群の学生と比べて教職相談室の利用回数が少なかったと分析できる。また、2 次合格群とそれ以外の群では、16 回以上の利用者が大きな違いが見られた。2 次合格群では、16 回以上の利用者が 94 人 (61.4%) であるのに対して、1 次合格群では 24 人 (23.9%)、不合格群では 8 人 (8.8%) であった。このことから、今後、教職相談室の利用回数を 16 回以上に上げることを学生に勧めるとともに、16 回以上利用すると合格率が大きく上昇することを伝えていきたい。

3 教職相談室の利用開始月と教員採用試験の合否

教職相談室を利用した学生の内、教員採用試験の合否が確認できる247人の利用開始月と合否の結果を示したものが表6である。平成25年4月から11月の間に教職相談室を利用し始めた48人の内34人(70.8%)が2次合格し、9人(18.8%)が1次合格、5人(10.4%)が不合格となっている。平成25年の12月に教職相談室を利用し始めた75人の内52人(69.3%)が2次合格し、11人(14.7%)が1次合格、12人(16.0%)が不合格となっている。

平成25年4月から11月までに利用し始めた学生の2次合格者と1次合格者の合計は43人であり、全体の89.6%をしめている。そして、平成25年12月

に利用し始めた学生の2次合格者と1次合格者の合計は63人であり、全体の84.0%をしめている。以下、2次合格者の数と(割合)は、1月:19人(59.4%)、2月:4人(80.0%)、3月:4人(40.0%)、4月:24人(42.9%)、5月:1人(11.1%)、7月:1人(20.0%)で、概ね利用開始月が遅くなるほど2次合格者の数と割合は減少していく傾向にあり、早い時期から利用を開始するほど合格率が高くなるという結果になっている。このことから、3年生の教育実習が終わった時期や12月初旬と1月初旬の2回開催される「教職ガイダンス」をきっかけにして、まず一度教職相談室に来室することを勧めていきたい。

表6 「教職相談室の利用開始月と教員採用試験の合否」

利用開始月	2次合格者数		1次合格者数		不合格者数		合計人数	
	人	%	人	%	人	%	人	%
平成25年 4~11	34	70.8	9	18.8	5	10.4	48	100
12	52	69.3	11	14.7	12	16.0	75	100
平成26年1	19	59.4	7	21.8	6	18.8	32	100
2	4	80.0	1	20.0		0.0	5	100
3	4	40.0	4	40.0	2	20.0	10	100
4	24	42.9	18	32.1	14	25.0	56	100
5	1	11.1	1	11.1	7	77.8	9	100
6		0.0		0.0		0.0		0.0
7	1	20.0	2	40.0	2	40.0	5	100
8	1	20.0	4	80.0		0.0	5	100
9		0.0	1	50.0	1	50.0	2	100
10		0.0		0.0		0.0		0.0
11		0.0		0.0		0.0		0.0
合計	140	56.7	58	23.5	49	19.8	247	100

IV 今後の取り組み

・ 利用回数ごとの教採合否結果を示したものが表7で、教員採用試験合格者の相談室平均利用回数は23.1回である。利用回数ごとの合格者数と不合格者数を比較してみると、利用回数が0~10回では概ね不合格者が合格者を上回っているが、11回以上では合格者が不合格者を上回っている。そしてまた、11回以上では、74%が2次合格し、45%が1次合格している。今後も、まずは小論文の指導や教師力養成講座のDVD視聴を通じて11回以上の利用を働きかけていきたい。これらの指導を4月まで継続した後、5月の連休明けから集団討論や面接などの指導を行い、試験当日までに20回以上の利用を実現するように働きかけていきたい。

また、教員採用試験を受験した者の内、70人が教職相談室を利用していない。そして、その内の

60%にあたる42人が不合格となっている。今後も様々な活動を通して、教員採用試験を受験する全学部の学生に対して、一度は教職相談室に来室することを勧める機会を設けていきたい。

・ 平成25年7月から教員を1名増員していただいたことにより、月曜から金曜までの週6時間を2人体制で指導できるようになった。また、平成26年4月からは週10時間に延長していただいたことにより、月曜から金曜まで常時2人体制で指導できるようになった。その結果、教職相談室の年間利用延べ人数の大幅な増加につながったと考えている。今後は、課程認定学部の教員志望学生への広報活動を更に行い、他学部からの来室者も一層増やす工夫と努力をしていきたいと考えている。

・ 「教員志望学生の指導のあり方(5)(6)」で述べたように、学生が小論文を書いて練習する目的は、単に「教員採用試験に合格できる論文が書けるようになる」ということではなく、教師になったときに「自分はこのような取り組みをしたい」という将来像を創り上げたり、「教師としての自覚や心構え」を形成したり、「教師になりたいという意欲や熱意」を高めたりすることにあると考えている。教職相談室が別に開催している教師力養成講座への参加やそのDVD視聴も、現在の学校現場が抱えている教育課題に取り組んでいる現場教師の生の姿に触れることを目的としている。先輩の現場で活躍している姿を見たり話を聞いたりして、自分だったらどうするかということと一緒に考えることにより、自分はどうのような教師になり、どのような取り組みをしたいかという将来像を徐々に創り上げ、教師としての自覚や使命感を高めたいと考えている。そして、小論文練習とDVD視聴の指導時期を学生の意識が1次試験対策に集中する前の1~3月に行いたいと考え、教育学部の就職・学生委員会と連携して新たに「教職ガイダンス」を1月8日に開催することができた。そして、今年は1月21日に開催した。このように学部と連携して教職相談室の活動を行うことができるようになったのは、月1回定期的に開催している就職・学生委員会正副委員長と教職相談室教員と事務員の打合会で細かい連絡・相談・調整を行っている成果である。この打合会での連携をさらに充実したものにしていきたい。そして、この打合会を平成27年の2月より「教職懇談会」と称することとなった。

表7 「教職相談室の利用回数と教員採用試験の合否結果」

利用回数	2次合格者数	1次合格者数	不合格者数	合計
0	13	15	42	70
1	2	4	5	11
2	5	6	10	21
3	4	1	3	8
4	1	5	4	10
5	3	3	3	9
6	4	1	2	7
7	2	2	2	6
8		1	2	3
9	3	1	1	5
10	3	1		4
11	5	2	2	9
12	4			4
13	3	3	2	8
14	1	2	1	4
15	6	2	4	12
16	3	2	1	6
17	6	2	1	9
18	3	1	1	5
19	3	1		4
20	2	1		3
21	2	3		5
22	3	2	1	6
23	6	1		7
24	2	1		3
25	1			1
26	3	1		4
27	5		1	6
28	3	1	1	5
29	2			2
30	2		1	3
31	2	1		3
32	4			4
33	2			2
34	2	2		4
35	3		1	4
36	2			2
37				
38				
39	5	2		7
40	3			3
41	2			2
42	2			2
43	2			2
44		1		1
45				
46		1		1
47	3			3
48	3			3
49	1			1
50	1			1
51	1			1
52				
53	1			1
54				
55				
56	2			2
57	1			1
58	1			1
59	1			1
60				
61				
62	2			2
63		1		1
64	1			1
65				
80	1			1
合計人数	153	73	91	317
平均回数	23.07	11.48	4.74	15.14

Provision of Guidance to Students Wishing to Become Teachers (7)

Status of How the Teaching Profession Consultation Office is Being Used

Kiyoshi OGAWA *¹, Mikio BUTO *¹, Seitaro KOBAYASHI *¹

The Teaching Profession Consultation Office thoroughly helps the students, who wish to become teachers, mainly in their studying for teaching staff examination. There are 2 attempts which improved the system this school year. Students are advised by 2 teaching staff at all times of the office hours from Monday to Friday, and we organized a peculiar guidance for educational profession in order to promote the frequency of the visit, which increased by 995 visits in a year. There was a great difference in the frequency of the visit between the students who had passed the teaching staff examination and those who had not as usual. The average frequency of the students who has passed the exam is 23.1. On the other hand, that of those who has passed only the first stage exam is 11.5 and that of those who has not passed is 4.7. It is also obvious that the earlier they started to visit the office continually, the higher possibility there was that they could succeed.

Keywords: Teaching Profession Consultation Office, improve the guidance system,
guidance for educational profession, visit frequency, visit start month

※ 1 Center for Teacher Education and Development, Okayama University
